

令和3年第3回定例会一般質問通告事項

9 月 8 日	前田孝人議員（尾道の会）	質問方式：一括質問方式
	<p>1 猛威を振るっているコロナウイルスについて</p> <p>(1) この度の爆発的な感染拡大の原因をどう把握し分析しているのか。また感染防止策として尾道市独自の取組みは行っているのか</p> <p>(2) この爆発的な感染拡大を防ぐには、市民に対して誰でも、どこでも、無料のPCR検査を行うことが最適な方法だと考えている。そのことにより無症状で潜在化している陽性者を早期に発見し、対策を打つことが出来る。またPCR検査場の開設を早急に行うべきだが、県に要望をしてはどうか</p> <p>(3) 提供される広島県の患者発生の資料には、市町別の感染者数と感染者の年代のみである。問題は市民が不安に思っている感染経路等の情報が全くないということだ。市が把握している感染経路等の情報を市民に発信すべきだがどうか</p> <p>(4) 2学期が始まった。子どもは感染しにくいと言われてきたが尾道市でも感染が急増している。今いかに子どもたちへの感染を食い止めるかが問われている。その方策はどうか。 特にワクチン接種の対象とはなっていない12歳未満の子どもたち、保育園の園児や小学校の児童は大丈夫だろうかと心配である。園児、児童や教職員の安全安心を守るためにも定期的にPCR検査を行うよう求めるものだがどうか</p> <p>(5) 国からのワクチンの供給が少なくなっているのが気がかりである。ワクチンは順調に入って来る見込みはあるのか</p> <p>(6) 爆発的に感染者が増えてきた。感染者はどこへ入院しているか。市民病院、JA総合病院あるいは市外の病院なのか。病床数は足りているのか。入院施設が間に合わなくてホテル等の宿泊療養施設。軽症者は自宅療養をしているのか気になるところである。また以前から提案している尾道ふれあいの里を宿泊療養施設として活用することも考える時期に来ていると思うがどうか</p> <p>2 尾道市立大学について</p> <p>(1) 50年先にも尾道市立大学は存続しているか。存続するための構想、未来像を尾道市や大学当局は持っているか</p> <p>(2) 尾道市が設置した尾道市立大学。その設立の目的は何か。また尾道市、尾道市民にとって市立大学の存在意義は何か</p>	

<p>9 月 8 日</p>	<p>(3) 開学当初から地元の学生が非常に少ないと言われる。もっと多くの尾道出身者を受け入れるための方策は考えているのか</p> <p>(4) 地元に必要な人材を育成するため、地元の受験生を優先して受け入れる「地元枠」がある。しかし入学者 300 人のうちその「枠」はわずか 7 人である。もっと増やすべきだがどうか</p> <p>(5) 卒業生 300 人のうち市内企業への就職は例年わずか 5 人程度である。尾道市が設置している市立大学。地元への就職がこの程度では何のための大学設置か疑問に思う。尾道市も大学当局ももっと市内企業への就職の積極支援をすべきだと思うがどうか</p> <p>(6) 地元企業へ就職するため新たな奨学金を地元企業と自治体が共同で創設してはどうか。例えば市民病院の医師確保にあるような奨学金を参考にすればと思う</p> <p>(7) 地元受験生の進路の選択も増え市内から多数が入学する。また卒業後は地元就職し、地元で貢献できる学科が必要である。医療現場では、深刻な看護師不足と言われている。尾道市民病院と連携して、社会のニーズが高い医療、看護系の学科の新設を考えてはどうか</p> <p>(8) 瑠璃山（浄土寺山）の中腹にあり尾道水道を望む絶好のロケーションである元筒湯小学校。第 2 キャンパスとして日本文学科、美術学科が活用してはと考えている。久保、尾崎をはじめ市街地に学生が住むことにもなり、新開をはじめとした賑わいの創設にも繋がり、経済効果も期待できると思うがどうか</p>
----------------------------	--